日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック

2026年度(第21回)ソーシャルワーク教育推進大会

テーマ

「ミクロ・メゾ・マクロの視座から問う ソーシャルワーク実習の質的深化」

～制度６年目の課題と未来へつなぐ実習教育モデル～



大会の趣旨

2021（令和3）年度から新カリキュラムによる社会福祉士養成課程がスタートし、6年が経過しました。その中で、ソーシャルワーク実習に関しては、地域における多様な福祉ニーズや多職種及び多機関の協働、社会資源開発等の実態を学ぶことができるよう、時間数を180時間から240時間に拡充し、機能の異なる2ヵ所以上の施設等で実習を行うこととされました。実習のねらいとしては、ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養うことなど5つの点が掲げられました。このような動きの中で、ソーシャルワーク実習教育は量的拡充から質的深化への転換期にあると考えられますが、多くの課題が存在しています。

そこで、本大会では、ソーシャルワーク実習の質を高めるためにミクロ（現場の指導法や教員の学生への指導アプローチ）・メゾ（養成校と施設、施設同士の実習指導に関する連携）・マクロ（ソーシャルワーク教育のカリキュラム）の各視点から議論し、最終的には、今後のソーシャルワーク実習の質的担保と発展に向けた長期的展望について、参加者の皆さまと共有するプラットフォームにしたいと考えています。

日　時　2026（令和8）年11月22日（日）
13:00～16:30（12:30から入室可能）

会　場（形式）　Zoom ミーティング

対象者　日本ソーシャルワーク教育学校連盟の教職員
学部生・大学院生、社会福祉施設・関係機関及び団体
その他関心のある方

参加費　無料

プログラム

総合司会：板垣　直子　氏（新潟青陵大学 助教）

基調講演
ミクロ・メゾ・マクロの視座から問う ソーシャルワーク実習の質的深化

シンポジウム
ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおける具体的実践と課題

主催：　日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック　新潟県支部

後援：　新潟県社会福祉士会、新潟県社会福祉協議会

協力：　国際こども・福祉カレッジ、日本こども福祉専門学校、新潟青陵大学、敬和学園大学
新潟大学、新潟県立大学、新潟医療福祉大学、特別養護老人ホーム「坂井愛宕の園」

プログラム詳細・お申し込みは次をご覧ください

問い合わせ先：　新潟医療福祉大学　渡邉敏文　／　〒950-3198　新潟市北区島見町1398番地
電話025-257-4464（研究室直通）　／　E-mail：toshi-w@nuhw.ac.jp

日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック
2026年度（第21回）ソーシャルワーク教育推進大会

プログラム

13:00 開会

総合司会
板垣 直子氏（新潟青陵大学　助教）

開会挨拶

日本ソーシャルワーク教育学校連盟
関東甲信越ブロック
運営委員長 船水 浩行 氏（東海大学 教授）

開催支部代表

13:10〜14:10 基調講演

14:10〜14:20
休憩

14:20〜15:40 シンポジウム

15:40〜15:50
休憩

15:50〜16:20 意見交換等

16:20 閉会の挨拶

16:30 閉会

基調講演

ミクロ・メゾ・マクロの視座から問う ソーシャルワーク実習の質的深化

〈講師〉日本福祉大学 ソーシャルワーク実習演習教育委員会委員長
林 祐介 氏（日本福祉大学 准教授）



〈講師プロフィール〉
医療ソーシャルワーカーとして13年間勤務する傍ら、日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科（博士課程）を修了し、2018年4月より大学教員へ転身。主な著書は、『効果的な退院・転院支援』（旬報社、2019年／第21回損保ジャパン日本興亜福祉財団奨励賞受賞）。論文「身寄りのない患者におけるソーシャルワーク支援と困難感についての量的研究」は、2026年度日本社会福祉学会学会賞奨励賞を受賞。

シンポジウム

ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおける 具体的実践と課題

〈実践報告〉
現場実習指導者／在校生／養成校教員／職能団体

報告1：古寺 直広 氏
（特別養護老人ホーム「坂井愛宕の園」施設長）
報告2：国際こども・福祉カレッジ 学生
報告3：廣川 真之輔 氏
（国際こども・福祉カレッジ 教員）
報告4：関口 悟 氏
（新潟県社会福祉士会）

〈コーディネーター〉
県支部運営委員　中村 健 氏（新潟大学 准教授）

申込方法：　下記のURLまたは二次元コードよりお申し込みください。
https://forms.gle/HyyE89bvWn3v9N9d9

申込締切：　11月18日（水）

※申込者には、**11月19日（木）**を目途に当日案内とZoom情報をメールでお送りいたします。

日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック

2026 年度（第 21 回）ソーシャルワーク教育推進大会開催要項

大会テーマ
ミクロ・メゾ・マクロの視座から問うソーシャルワーク実習の質的深化
～ 制度６年目の課題と未来へつなぐ実習教育モデル ～

≪大会の趣旨≫

2021（令和 3）年度から新カリキュラムによる社会福祉士養成課程がスタートし、6 年が経過しました。その中で、ソーシャルワーク実習に関しては、地域における多様な福祉ニーズや多職種及び多機関の協働、社会資源開発等の実態を学ぶことができるよう、時間数を 180 時間から 240 時間に拡充し、機能の異なる 2 ヵ所以上の施設等で実習を行うこととされました。実習のねらいとしては、ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養うことなど 5 つの点が掲げられました。このような動きの中で、ソーシャルワーク実習教育は量的拡充から質的深化への転換期にあると考えられますが、多くの課題が存在しています。

そこで、本大会では、ソーシャルワーク実習の質を高めるためにミクロ（現場の指導法や教員の学生への指導アプローチ）・メゾ（養成校と施設、施設同士の実習指導に関する連携）・マクロ（ソーシャルワーク教育のカリキュラム）の各視点から議論し、最終的には、今後のソーシャルワーク実習の質的担保と発展に向けた長期的展望について、参加者の皆さまと共有するプラットフォームにしたいと考えています。

1　日　時

2026（令和 8）年 11 月 22 日（日）　13:00～16:30（12:30 から入室可能）

2　会場（形式）

オンライン形式（Zoom ミーティング）

3　参加予定者

日本ソーシャルワーク教育学校連盟の教職員・学部生・大学院生、社会福祉施設・関係機関及び団体、その他関心のある方

4　大会参加費

無　料

5　参加申し込み方法

下記の URL 又は QR コード（Google Forms）より、申し込んでください。

URL：https://forms.gle/HyyE89bvWn3v9N9d9

QR コード：

6　問い合わせ先

新潟医療福祉大学　渡邉敏文
〒950-3198　新潟市北区島見町 1398 番地
電話 025-257-4464（研究室直通）
E-mail：toshi-w@nuhw.ac.jp

7　主　催

日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック　新潟県支部

8　後　援

新潟県社会福祉士会、新潟県社会福祉協議会

9　協　力

国際こども・福祉カレッジ、日本子ども福祉専門学校、新潟青陵大学、敬和学園大学、新潟大学、新潟県立大学、新潟医療福祉大学、特別養護老人ホーム「坂井愛宕の園」

10　日程・内容

13:00　開会挨拶
日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック運営委員長　船水 浩行 氏
（東海大学 教授）
日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック新潟県支部長　渡邉 敏文 氏
（新潟医療福祉大学 教授）

13:10　基調講演
講師：日本福祉大学 ソーシャルワーク実習演習教育委員会委員長　林 祐介 氏
（日本福祉大学 准教授）
テーマ「ミクロ・メゾ・マクロの視座から問うソーシャルワーク実習の質的深化」

14:10　休憩

14:20　シンポジウム
テーマ「ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおける具体的実践と課題」
コーデイネーター：県支部運営委員　中村 健 氏（新潟大学 准教授）
【実践報告】14:20～15:40　　各 20 分報告
報告 1　現場実習指導者（実習生を受け入れる立場からの報告）
古寺 直広 氏　（特別養護老人ホーム「坂井愛宕の園」施設長）
報告 2　養成校在校生（実習を行う学生の立場からの報告）
原田 侑奈 氏　（国際こども・福祉カレッジ 福祉心理学科 4 年生）
報告 3　養成校教員（実習生を送りだす立場からの報告）
廣川 真之輔 氏　（国際こども・福祉カレッジ 教員）
報告 4　職能団体（職能団体から見たソーシャルワーク教育（実習））について）
関口 悟 氏　（新潟県社会福祉士会）
【休憩】　15:40～15:50
【意見交換等】15:50～16:20
①　基調講演講師からコメント 5 分
②　報告者同士の確認・質問、フロアも含めた討論・情報交換など　20 分
③　まとめ（コーデイネーター）　5 分

16:20　閉会の挨拶

16:30　閉会